

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 富士 和樹
所属 (School) 工学研究科 物質・化学系専攻
化学工学課程
学年 (Grade) 博士前期課程 1 年
留学先 (Name of overseas institution)
国立台湾科技大学
留学期間 (study abroad period)
2019/11/16~2019/11/20
記入日 (Date) 2019/11/25

留学レポート Study Abroad Report

✓ はじめに

僕は 2019 年 11 月 16 日~20 日に、国立台北科技大学で開催された国際学会 (TACT2019 International Thin Film Conference) に参加しました。また、学会への参加と並行して、国立台湾科技大学の洪儒生先生が率いる無機薄膜材料研究室 (Thin Film Materials lab.) の見学もさせていただきました。このレポートでは、国際学会への参加、大学の研究室見学を通して、僕が今回の渡航で感じたことについて報告します。

✓ 学会への参加

僕は、国立台北科技大学で開催された TACT2019 に参加し、15 分間の口頭発表を行いました。この学会は、コーティング薄膜技術に関する学会で、29 か国以上からの学生、研究者、技術者が参加していました。また、この学会に参加していた日本人の割合は、全体の 2~3% という感じでした。学会初日はオープニングセッションと基調講演があり、薄膜コーティング分野のパイオニアの方々のお話を聞くことができました。その後、夜にはウェルカムリセプションがあり、同大学内で学会の参加者と顔合わせを兼ねた晚餐会に参加しました。学会 2 ~ 4 日目は午前中に基調講演、午後には発表セッションが行われました。発表は、僕の口頭発表は 2 日目で、とても緊張しながら、英語で 12 分の発表をした後約 3 分間の質疑応答を行わせていただきました。参加者の関わる研究分野は幅広く、僕が取り組んでいる研究分野について詳しい人ばかりなので、自分の研究内容を限られた時間の中で詳しく英語で説明することに大変苦労しました。初めての英語での発表で、拙い英語でしたが、多くの方々に真剣に聞いて頂きました。台湾をはじめ、チェコなど英語が母国語ではない国の方々は流暢な英語で慣れた様子で発表しており、語学力の差や経験の少なさを痛感しました。

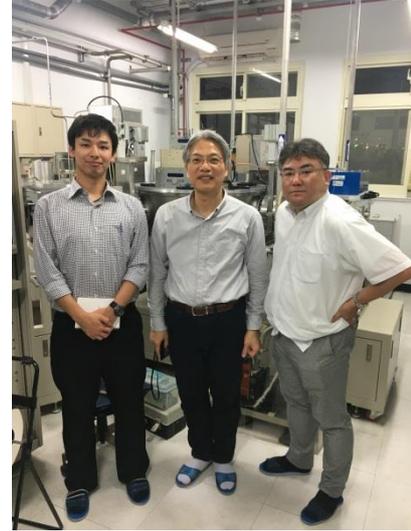
学会期間中は Banquet 等、参加者全体で食事を共にすることが多く、様々な国の方々と交流することができました。台湾音楽や伝統芸なども披露していただきました。英語での会話はかなり苦労しましたが、何とか会話を成立させようと、必死で努力しました。



(写真左) 自分の口頭発表の様子
(写真中) 学会 3 日目 Banquet の様子
(写真右) Banquet にて台湾音楽を披露してくれた方々

✓ 台湾科技大學の研究室見学

国立台湾科技大学の洪儒生先生が率いる無機薄膜材料研究室(Thin Film Materials lab.)を見学させていただきました。大学を訪れて、まず第一に感じたことは「とても活気がある」です。研究室見学のために、夕方5時半ごろに国立台湾科技大学に到着したのですが、まるで昼間のように食堂や校舎内が人で埋め尽くされていました。その後、洪儒生先生の教授室に伺い、研究室の様子と、実験装置を見学させていただきました。自分の所属している研究室にもあるようなCVD装置やスパッタ装置のある部屋をまず見学しました。そこは学生の居室と実験室がドアひとつで区切られた感じになっており、実験がしやすいような部屋の構造でした。次に、大型の実験装置がある場所に向かったのですが、それはそれはとても大きな装置で、製膜しながらXPS測定ができる装置があり、あまりの大きさに驚愕しました。最後は、Si原料やP原料が厳重に保管されている部屋を見学しました。しっかりと厳重に保管されており、安全のために細心の注意を払っていました。



(写真左) 真左)

巨大実験装置、製膜しながらXPS測定ができる
(写真右) Si原料やP原料を厳重に保管してある部屋

✓ さ이에に

今回の学会では、日本から近く行きやすい台湾(台北)を訪れました。自身初となる海外ということで不安もたくさんありましたが、自分から積極的に、思っていることを伝えたい一心で拙い英語を話すと、現地の人も一生懸命理解しようとしてくれ、非常にうれしい気持ちになると同時に安心しました。日本とは異なる文化や空気感にも触れることができ、大変貴重な経験ができました。また、台北にはMRTと呼ばれる地下鉄があったり、バスやタクシーなどの公共交通機関がかなり安く、本数も多かったために移動も特に苦労はしませんでした。学会の会場であった国立台北科技大学は、とてもきれいな建物で、最寄駅から近く、近くたくさんの校舎がありました。台北は人口密度がとても高く、MRTどの駅で下車しても、日本の渋谷や銀座のような感じでした。夜市と呼ばれる、多くの屋台が集まるマーケットもあり、日本人観光客も多く来るためか、少し日本語を話せる店員さんもいて、不自由なく買い物もできました。台湾を訪れる機会があれば、躊躇うことなく積極的に行動することをお勧めします。



(写真左) 台湾の原宿と呼ばれる西門町の街並み
(写真中) 西門町商店街の入り口・人がとても多い
(写真右) 台湾最大の夜市(士林夜市)

